

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100824		
法人名	社会福祉法人 すみれ福祉会		
事業所名	グループホーム 花クッカ		
所在地	高松市松福町一丁目12-3		
自己評価作成日	令和 4 年 3 月 8 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3790100824-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 3 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特別養護老人ホームナウラテラスと併設されており、共有できる部分がある。建物の内装は木目調を基本としており、家庭的で温かみがあり落ち着いた雰囲気の中過ごしていただける。玄関前にはピオトープがあり、メダカや植栽などの自然が眺められ癒しの空間づくりを行っている。利用者・ご家族の繋がりを大切にするため、ガラス越しでご本人の様子を直接見ていただける形での面会を実施し、感染症対策を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

様々な施設を経験してきた職員を選抜し、新設のGHに心血を注いできた。利用者のために「目配り」「声配り」「声配り」のスローガンを基に、あてにされる事業所を浸透しようとして、やっと大まかな幹は形付けられた。もっと経験を積み重ね、利用者ペースに合わせ、一人ひとりが、自発性を持って、また積極的に叶えようと努めている。中でも、利用者の生活をどう補うか、どう支援するかを心に刻み、激動の1年を、職員一人ひとりが乗り越えてきた。熱意がベクトル合わせの甲斐となったのであろう。ピオトープと名付けられた人工な川があって、そこには元気よくメダカが「♪みんな並んでお遊戯をしている♪」と歌いながら泳いでいた。また、それを並んで間近に見る利用者の姿が誇らしく、のどかな施設を築こうと職員は、遊び心を交えた夢を見ていた。将来を見据えた人が集い、人を見守って、やっと成果が今現在までに至った頼もしい人たちに囲まれた施設の将来が手に取れるようになった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「目配り」「気配り」「声配り」をモットーに日々利用者へのサービス提供を実践している。	利用者の安全を第一に考えて行動することで、目配り・気配り・声配りを実践している。月2回の勉強会を開催して、理念の共有を図っている。会議で出た案を参考にして「まずはやってみよう」の精神を大切に、何かあれば修正していくことで、理念共有に取り組んでいる。	コロナ終焉後の外部との関わりに向けて、玄関にも経営理念を大きく掲示してみたいかがでしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との直接的な交流の場は持っていない。	隣接する保育園の園児が施設内の道を通るたびに、挨拶や手を振ることで地域交流ができています。開設時に町内会、地区社協、自治会長に挨拶へ行った。地域の学校関係にも出向いて、福祉の良さを紹介している。	コロナ禍で、地域との交流が、薄いままなので、ぼちぼち、外の地域にも目を向けてみてはいかがでしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の方と直接的な交流の場は持っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの活動状況を書面にて報告し、意見等を求めサービスの向上につなげている。	参加者は、介護保険課、民生委員、老人クラブ、女性教室の会長、家族代表の委員会が、コロナの為、通常の会議を現在は書面にて分割開催し、郵送している。現状や作業療法、お菓子作りなどの取り組みについての報告を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で活動内容を書面で報告する程度となっている。	窓口は両ユニットの管理者。何かわからないことがあれば、質問するようにしている。市町村からのタイムリーな情報も提供して頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員勉強会の場で身体拘束についての情報を共有し実践している。	身体拘束はしない。委員会は毎月、特養と合同で開催している。具体例やスピーチロックも取り上げて、身体拘束に当たらないように配慮している。業務が優先にならないように、利用者が一番だということを常に考えて行動し、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会の場で虐待防止についての情報を共有し実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員勉強会の場で制度等を学び、理解の促進と活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度十分な説明を行う機会を持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話での問い合わせや面会などで施設訪問時に意見や要望を聞きサービスに反映させている。	利用者の食べたい物を嗜好調査し、献立に反映させている。家族には、通院や連絡する際に必ず意見を聴取するようにしている。近況では、散髪のアポイントメントのお問い合わせがあり、日程調整を行った。夜間に喉が渇く人には、家族に依頼し水筒を持って来て頂いたこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ケア会議を開催し意見や提案を報告している。月に2回勉強会、職員会で意見交換を行っている。	何かあればその都度、職員とは面談を実施して、意見を反映できるように耳を傾けている。開設して間もないこともあり、職員間でのコミュニケーションを大切にしている。勤務形態は家庭環境や体調を考慮して組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会、職員会等を通じて、職員の勤務状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	動画コンテンツを活用したり、個別で介護技術の講習を実施する等、各職員の能力に応じた環境整備を行い技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加した際、他施設の職員と交流し情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設での生活や、他者と馴染めるように努めている。また、本人のペースに合わせた会話や介助を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接を行い、家族から悩みや不安を聞くようにしている。また、家族のおもいを受け止め、利用後も話し合う時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、実情や要望をもとに必要な支援を見極めている。また、徐々になじんで利用できるよう工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯物たたみ、裁縫を手伝ってもらったり、食事やおやつ作りを一緒にする等、利用者とともに過ごしながらかつて学ばう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で状況を報告し、相談し合える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、家族や知人とは面会や電話などで関係の維持を努めている。	施設内の特養に家族がいることで行き来したり、散歩がてらにビオトープへ行きメダカを鑑賞したりすることが楽しみとなっている。広大な敷地を利用して、事務所へ散歩して、職員との会話を楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者の方々を観察し、職員間で情報共有し、食事の席の変更や役割分担等孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、併設施設を利用している時は面会したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床時間や入浴の順番、嗜好調査等、利用者の思いや希望の把握に努めている。これまでの生活を家族から聞き、本人の思いが叶えられるようにしている。日々の会話や関りを大切にしている。	意思疎通は図れるので、頷いてもらえるように言葉掛けを工夫していて、表情や仕草からも読み取るようにしている。意向を察したことから、入浴の際に順番や時間を変更して、気持ち良く入って頂くシーンも生まれ、日々の生活観察の成果が現れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントや本人、家族からの聞きとり、日々の関わりの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有し入居者の暮らしの流れや役割、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人に担当者を決めており、事前に担当の職員が本人や家族に要望を聞き、本人がより良く暮らせるように計画を立て、管理者、職員全員で話し合いをしている。	介護計画は、入居前にアセスメントしてプランを作成し、大まかなプランから、細かいプランに変更できるように介護に役立てている。長期目標は1年、短期目標は半年で作成し、何かあればその都度変更している。担当制を敷いていることが、介護に対して上手く機能している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を午前、午後、夜間帯、特記事項等で記録しケアチェックを行っている。小さな変化や気づきがあればその都度申し送り帳に記入し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況の変化や家族の要望等にあわせ、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との直接的な交流の場は持っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を継続したり、本人と家族から要望があった場合は事業所の嘱託医に変更している。精神科医による訪問診療もあり相談できる。	特養の嘱託医が訪問している。かかりつけ医は特別な事情がない限り、転医される。家族と相談の基、精神科の往診も月2回ある。特養の看護師がグループホームへも目配りが行き届き、日勤は常駐していて安心できる。訪問歯科は週2回で口腔ケアや往診をしてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員が毎日様子観察に来られている。利用者の状態報告や適切な指示をもらう連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は定期的に病院関係者や家族と話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	延命治療の有無の意向は確認している。本人の状態に合わせて家族の意向を聞き対応できることを話している。	ターミナルは実施しているが、今のところ看取りはなかった。入居時に家族や利用者の意見を聞き、同意書を交わしている。年1回のターミナルケアの座学を実施したことで、職員は知識を深めることができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており、定期的に研修も行い、他部署との連携も図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、火災発生を想定し避難誘導や消火器の使い方を訓練している。シェイクアウト訓練も実施している。厨房室に備蓄食糧が保管してある。	年2回火災訓練を昼夜想定で実施した。避難経路は各フロアに掲示し、事務所の見えるところに連絡網を配備している。備蓄は施設の厨房で、パン、焼き鳥、カン詰め、水などを3日分保管している。期限間近の物は、利用者や職員の給食として提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	指示や命令口調はせず、利用者と同じ目線で優しく声かけするように心がけている。	利用者に役割を持って生活できるように声配りをして、一人一人を尊重している。呼称は苗字に「さん」づけで、夫婦の方は下の名前に「さん」付けて呼んでいる。居室に入る時は、必ず許可を取って入室する管理者の姿がそこにあった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手の気持ちに寄り添い、多く関り、馴染みが深くなることで本人が思いや希望を表せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に合わせたケアができるように希望を聞くだけでなく、入浴やリハビリ、就寝等状態に合わせて過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んだり好みの髪型にできるよう支援している。女性はメイクをしたりおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食材は提供せず、他の食材に変更している。また、嗜好調査を実施している。片付け等利用者一緒に行っている。	半年に一回の嗜好調査や日常会話から汲み取っている。3食特養の厨房で手作り、おやつは家族からの差し入れもある。栄養士と相談して、本人の食べたい物を提供を心がけ、梅ジュース、ホットケーキ、羊羹、クリスマスケーキをデコレーションしたり、抹茶を立てたりして、楽しんで頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立てており栄養バランスはとれている。水分は希望を聞いたり、運動、入浴後等こまめに水分補給して確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。必要に応じてスポンジブラシを使用している。義歯は每晚洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ、その人の排泄の間隔や癖を考慮し支援している。	トイレは各ユニット3ヶ所ある。布パンツの人も数名いる。排泄チェック表を活用し職員から誘導して、なるべく失禁しないように、財布に優しい配慮をしている。排泄失敗時には、羞恥心に気遣い「心配ないですよ」「大丈夫です」と耳元で言葉かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の実施やリハビリ等適度な運動を心掛けている。お話している時にお茶を出すようにし無理なく水分補給を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を聞いて着替えの準備から始まり、声かけ、誘導、出るまで支援している。受け入れられない場合は時間や曜日をずらしている。	週2回。時間帯は看護師の状況にもよるが、なるべく時間帯を選べるようにしている。個浴が移動式で、座って入る機械浴もある。入浴が好きな利用者が多く、お湯はその都度交換している。入浴後の保湿ケアもしているので、乾燥肌になりにくい心配りをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを大切に、一人一人の臥床時間を支援している。不眠時は眠くなるまで付き添ったり一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は口に入れて飲み込むまで確認している。目的や副作用、用法についてはファイルを作成し管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った役割を分担し洗濯物たたみ等行っている。使い慣れた家具や裁縫道具、化粧品道具を持参し使用していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外庭への散歩や近くの公園までの散歩などで外出の機会を設けている。ご家族の希望で墓参りや法事等に出かけている。	外出が難しいので広大な施設を利用して、内外を問わず散歩を中心にストレスを解消している。家族の協力の下、法要への参加をしたり、近隣の公園にも出かけ、フラストレーションの予防にも心がけている。ピオトープへの散歩が日課となっている利用者も多々いる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には利用者本人が財布や現金を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	グループホーム内にある電話を使用することもあ る。携帯電話を持っている方もいる。希望があれば郵便でのやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の部屋番号や廊下には利用者と共に作成した季節に合った折り紙や手芸品を飾っている。	天井が高くて落ち着いた空間で、利用者はテレビを観る・新聞を読むなど、自分の時間をゆっくり過ごしていた。壁面には塗り絵や書道、布で作った作品が飾られていて、利用者の素晴らしい手つきを感じることができた。新しい施設だけに清潔感があふれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには一人掛けの椅子の他にテレビの前にソファを設置し、自由に過ごす場所を選んでもいただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとチェストは備え付けで利用できるが、畳に変更もできる。本人の馴染みの物を持ち込みその人らしい居室になっている。昔から家で使っているテーブルを置いていたりされている方もいる。	備え付けはベット、タンス、洗面台。洗面台の高さは利用者に合わせて調整できるようになっていて、身長差や腰の悪い方にも重宝している。懐かしい家族写真や書道の作品を掲示したり、本やクロスワードなどの趣味が楽しめ、居室は自分の城となって我が家となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、ホールは手すりを設置し安全に生活できるよう環境整備をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100824		
法人名	社会福祉法人 すみれ福祉会		
事業所名	グループホーム 花クッカ		
所在地	高松市松福町一丁目12-3		
自己評価作成日	令和 4 年 3 月 8 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3790100824-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 3 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特別養護老人ホームナウラテラスと併設されており、共有できる部分がある。建物の内装は木目調を基本としており、家庭的で温かみがあり落ち着いた雰囲気の中過ごしていただける。玄関前にはピオトープがあり、メダカや植栽などの自然が眺められ癒しの空間づくりを行っている。利用者・ご家族の繋がりを大切にするため、ガラス越しでご本人の様子を直接見ていただける形での面会を実施し、感染症対策を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

様々な施設を経験してきた職員を選抜し、新設のGHに心血を注いできた。利用者のために「目配り」「声配り」「声配り」のスローガンを基に、あてにされる事業所を浸透しようとして、やっと大まかな幹は形付けられた。もっと経験を積み重ね、利用者ペースに合わせ、一人ひとりが、自発性を持って、また積極的に叶えようと努めている。中でも、利用者の生活をどう補うか、どう支援するかを心に刻み、激動の1年を、職員一人ひとりが乗り越えてきた。熱意がベクトル合わせの甲斐となったのであろう。ピオトープと名付けられた人工な川があって、そこには元気よくメダカが「♪みんな並んでお遊戯をしている♪」と歌いながら泳いでいた。また、それを並んで間近に見る利用者の姿が誇らしく、のどかな施設を築こうと職員は、遊び心を交えた夢を見ていた。将来を見据えた人が集い、人を見守って、やっと成果が今現在までに至った頼もしい人たちに囲まれた施設の将来が手に取れるようになった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「目配り」「気配り」「声配り」をモットーに日々利用者へのサービス提供を実践している。	利用者の安全を第一に考えて行動することで、目配り・気配り・声配りを実践している。月2回の勉強会を開催して、理念の共有を図っている。会議で出た案を参考にして「まずはやってみよう」の精神を大切に、何かあれば修正していくことで、理念共有に取り組んでいる。	コロナ終焉後の外部との関わりに向けて、玄関にも経営理念を大きく掲示してみたいかがでしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との直接的な交流の場は持ていない。	隣接する保育園の園児が施設内の道を通るたびに、挨拶や手を振ることで地域交流ができています。開設時に町内会、地区社協、自治会長に挨拶へ行った。地域の学校関係にも出向いて、福祉の良さを紹介している。	コロナ禍で、地域との交流が、薄いままなので、ぼちぼち、外の地域にも目を向けてみてはいかがでしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の方と直接的な交流の場は持ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの活動状況を書面にて報告し、意見等を求めサービスの向上につなげている。	参加者は、介護保険課、民生委員、老人クラブ、女性教室の会長、家族代表の委員会が、コロナの為、通常の会議を現在は書面にて分割開催し、郵送している。現状や作業療法、お菓子作りなどの取り組みについての報告を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で活動内容を書面で報告する程度となっている。	窓口は両ユニットの管理者。何かわからないことがあれば、質問するようにしている。市町村からのタイムリーな情報も提供して頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員勉強会の場で身体拘束についての情報を共有し実践している。	身体拘束はしない。委員会は毎月、特養と合同で開催している。具体例やスピーチロックも取り上げて、身体拘束に当たらないように配慮している。業務が優先にならないように、利用者が一番だということを常に考えて行動し、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会の場で虐待防止についての情報を共有し実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員勉強会の場で制度等を学び、理解の促進と活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度十分な説明を行う機会を持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話での問い合わせや面会などで施設訪問時に意見や要望を聞きサービスに反映させている。	利用者の食べたい物を嗜好調査し、献立に反映させている。家族には、通院や連絡する際に必ず意見を聴取するようにしている。近況では、散髪のアポイントメントのお問い合わせがあり、日程調整を行った。夜間に喉が渇く人には、家族に依頼し水筒を持って来て頂いたこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ケア会議を開催し意見や提案を報告している。月に2回勉強会、職員会で意見交換を行っている。	何かあればその都度、職員とは面談を実施して、意見を反映できるように耳を傾けている。開設して間もないこともあり、職員間でのコミュニケーションを大切にしている。勤務形態は家庭環境や体調を考慮して組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会、職員会等を通じて、職員の勤務状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	動画コンテンツを活用したり、個別で介護技術の講習を実施する等、各職員の能力に応じた環境整備を行い技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加した際、他施設の職員と交流し情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設での生活や、他者と馴染めるように努めている。また、本人のペースに合わせた会話や介助を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接を行い、家族から悩みや不安を聞くようにしている。また、家族のおもいを受け止め、利用後も話し合う時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、実情や要望をもとに必要な支援を見極めている。また、徐々になじんで利用できるよう工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯物たたみ、裁縫を手伝ってもらったり、食事やおやつ作りを一緒にする等、利用者とともに過ごしながらかつて学ばう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で状況を報告し、相談し合える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、家族や知人とは面会や電話などで関係の維持を努めている。	施設内の特養に家族がいることで行き来したり、散歩がてらにビオトープへ行きメダカを鑑賞したりすることが楽しみとなっている。広大な敷地を利用して、事務所へ散歩して、職員との会話を楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者の方々を観察し、職員間で情報共有し、食事の席の変更や役割分担等孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、併設施設を利用している時は面会したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床時間や入浴の順番、嗜好調査等、利用者の思いや希望の把握に努めている。これまでの生活を家族から聞き、本人の思いが叶えられるようにしている。日々の会話や関りを大切にしている。	意思疎通は図れるので、頷いてもらえるように言葉掛けを工夫していて、表情や仕草からも読み取るようにしている。意向を察したことから、入浴の際に順番や時間を変更して、気持ち良く入って頂くシーンも生まれ、日々の生活観察の成果が現れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントや本人、家族からの聞きとり、日々の関わりの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有し入居者の暮らしの流れや役割、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人に担当者を決めており、事前に担当の職員が本人や家族に要望を聞き、本人がより良く暮らせるように計画を立て、管理者、職員全員で話し合いをしている。	介護計画は、入居前にアセスメントしてプランを作成し、大まかなプランから、細かいプランに変更できるように介護に役立てている。長期目標は1年、短期目標は半年で作成し、何かあればその都度変更している。担当制を敷いていることが、介護に対して上手く機能している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を午前、午後、夜間帯、特記事項等で記録しケアチェックを行っている。小さな変化や気づきがあればその都度申し送り帳に記入し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況の変化や家族の要望等にあわせ、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との直接的な交流の場は持っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を継続したり、本人と家族から要望があった場合は事業所の嘱託医に変更している。精神科医による訪問診療もあり相談できる。	特養の嘱託医が訪問している。かかりつけ医は特別な事情がない限り、転医される。家族と相談の基、精神科の往診も月2回ある。特養の看護師がグループホームへも目配りが行き届き、日勤は常駐していて安心できる。訪問歯科は週2回で口腔ケアや往診をしてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員が毎日様子観察に来られている。利用者の状態報告や適切な指示をもらう連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は定期的に病院関係者や家族と話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	延命治療の有無の意向は確認している。本人の状態に合わせて家族の意向を聞き対応できることを話している。	ターミナルは実施しているが、今のところ看取りはなかった。入居時に家族や利用者の意見を聞き、同意書を交わしている。年1回のターミナルケアの座学を実施したことで、職員は知識を深めることができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており、定期的に研修も行い、他部署との連携も図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、火災発生を想定し避難誘導や消火器の使い方を訓練している。シェイクアウト訓練も実施している。厨房室に備蓄食糧が保管してある。	年2回火災訓練を昼夜想定で実施した。避難経路は各フロアに掲示し、事務所の見えるところに連絡網を配備している。備蓄は施設の厨房で、パン、焼き鳥、カン詰め、水などを3日分保管している。期限間近の物は、利用者や職員の給食として提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	指示や命令口調はせず、利用者と同じ目線で優しく声かけするように心がけている。	利用者に役割を持って生活できるように声配りをして、一人一人を尊重している。呼称は苗字に「さん」づけで、夫婦の方は下の名前に「さん」付けて呼んでいる。居室に入る時は、必ず許可を取って入室する管理者の姿がそこにあった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手の気持ちに寄り添い、多く関り、馴染みが深くなることで本人が思いや希望を表せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に合わせたケアができるように希望を聞くだけでなく、入浴やリハビリ、就寝等状態に合わせて過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んだり好みの髪型にできるよう支援している。女性はメイクをしたりおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食材は提供せず、他の食材に変更している。また、嗜好調査を実施している。片付け等利用者一緒に行っている。	半年に一回の嗜好調査や日常会話から汲み取っている。3食特養の厨房で手作り、おやつは家族からの差し入れもある。栄養士と相談して、本人の食べたい物を提供を心がけ、梅ジュース、ホットケーキ、羊羹、クリスマスケーキをデコレーションしたり、抹茶を立てたりして、楽しんで頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立てており栄養バランスはとれている。水分は希望を聞いたり、運動、入浴後等こまめに水分補給して確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。必要に応じてスポンジブラシを使用している。義歯は每晚洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ、その人の排泄の間隔や癖を考慮し支援している。	トイレは各ユニット3ヶ所ある。布パンツの人も数名いる。排泄チェック表を活用し職員から誘導して、なるべく失禁しないように、財布に優しい配慮をしている。排泄失敗時には、羞恥心に気遣い「心配ないですよ」「大丈夫です」と耳元で言葉かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の実施やリハビリ等適度な運動を心掛けている。お話している時にお茶を出すようにし無理なく水分補給を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を聞いて着替えの準備から始まり、声かけ、誘導、出るまで支援している。受け入れられない場合は時間や曜日をずらしている。	週2回。時間帯は看護師の状況にもよるが、なるべく時間帯を選べるようにしている。個浴が移動式で、座って入る機械浴もある。入浴が好きな利用者が多く、お湯はその都度交換している。入浴後の保湿ケアもしているので、乾燥肌になりにくい心配りをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを大切に、一人一人の臥床時間を支援している。不眠時は眠くなるまで付き添ったり一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は口に入れて飲み込むまで確認している。目的や副作用、用法についてはファイルを作成し管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った役割を分担し洗濯物たたみ等行っている。使い慣れた家具や裁縫道具、化粧品道具を持参し使用していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外庭への散歩や近くの公園までの散歩などで外出の機会を設けている。ご家族の希望で墓参りや法事等に出かけている。	外出が難しいので広大な施設を利用して、内外を問わず散歩を中心にストレスを解消している。家族の協力の下、法要への参加をしたり、近隣の公園にも出かけ、フラストレーションの予防にも心がけている。ピオトープへの散歩が日課となっている利用者も多々いる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には利用者本人が財布や現金を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	グループホーム内にある電話を使用することもあ る。携帯電話を持っている方もいる。希望があれば郵便でのやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の部屋番号や廊下には利用者と共に作成した季節に合った折り紙や手芸品を飾っている。	天井が高くて落ち着いた空間で、利用者はテレビを観る・新聞を読むなど、自分の時間をゆっくり過ごしていた。壁面には塗り絵や書道、布で作った作品が飾られていて、利用者の素晴らしい手つきを感じることができた。新しい施設だけに清潔感があふれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには一人掛けの椅子の他にテレビの前にソファを設置し、自由に過ごす場所を選んでもいただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとチェストは備え付けで利用できるが、畳に変更もできる。本人の馴染みの物を持ち込みその人らしい居室になっている。昔から家で使っているテーブルを置いていたりされている方もいる。	備え付けはベット、ダンス、洗面台。洗面台の高さは利用者に合わせて調整できるようになっていて、身長差や腰の悪い方にも重宝している。懐かしい家族写真や書道の作品を掲示したり、本やクロスワードなどの趣味が楽しめ、居室は自分の城となって我が家となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、ホールは手すりを設置し安全に生活できるよう環境整備をしている。		